

団 長 報 告

丸 山 和 博

1.はじめに

団員は14名、男性4名女性10名、年齢は18歳から29歳まで、12名の学生と2名の社会人という構成の団員と6年前にリトアニア訪問団経験のある副団長と私との計16名の訪問団となった。

7月4日～9日の事前研修で初顔合わせからチームワークの形成が図られ、訪問団の目標は「ワを拡げる」とし、サブタイトルがリトアニアの文字になぞらえて下記のごとく設定された。

- リ 理解を深め
- ト 共に手を取り合って
- ア 明るい
- ニ 二国間の
- ア 明日を作ろう！

8月29日には、自主研修の成果を持ち寄っての自主研修会が開催され、情報の共有化が図られた。

2.主要訪問先

(1)リトアニア共和国議会(the Seimas)

9月12日(月) ロレータ・グロウジニエネ国会議長を表敬訪問した。

グリボウスカイト大統領の御都合がどうしてもつかないということで急遽国会議長への表敬訪問となったが、国会議長から本年3月に訪日し安倍首相と面談したエピソードを含めた温かい歓迎スピーチを頂いた後で、私から表敬の御挨拶をし、続いてYL(河野朱音)からリトアニア語の立派なショートスピーチで御挨拶を行い好評を博した。

続いてプレゼントの交換が行われたが、当方から団員(朝比奈友里 書道七段)が書いた色紙を贈った。

今回の訪問団の目標「ワを拡げる」と色紙の文字「縁尋機妙 多逢聖因」(古代仏教の論説集 法苑珠林並びに地藏本願経から)の意味(緑が緑を尋ねて拡がって行く様は誠に妙なるものがある 多くの良い人と逢うことが良いことを招く原因になる)を説明して贈呈したところ、心のこもった贈り物に感激したとお礼の言葉を頂戴した。

国会議長への表敬訪問の前後に、プロトコール部のベトレイティス主任から国会の建物内外の主要部分を御案

内いただき、1989年からのソ連から独立を勝ち取るまでの壮絶な歴史の痕跡を懇切丁寧に御説明いただいた。

テレビ塔での14名の犠牲者等リトアニアがつい最近に経験してきた劇的な出来事に想いを致す時、平和な日本の生活との較差に愕然とし、改めて平和の有難さと国際関係の厳しい現実を再認識した。

(2)在リトアニア日本国大使館

9月12日(月) 在リトアニア日本国大使館を訪問し、重枝豊英特命全権大使に表敬の御挨拶をした。大使から予定の面談時間を超えて熱心に直近のリトアニア事情について御説明をいただいた。

リトアニアは近い将来に飛躍する大きな可能性を秘めた国であること、グリボウスカイト大統領は非常に強い心を持った大統領でロシアのウクライナ併合に関しても歯に衣着せぬ非難を堂々と繰り広げていること、従ってロシアとの緊張関係が高まっていること等、リトアニアに対する大使の想いの深さを感じられる話を伺うことができた。

続いて大使館員からリトアニアについての基本情報の懇切なプレゼンテーションをいただき、これから始まる訪問のオリエンテーションとして有意義な時間を過ごすことができた。

(3)クライペダ市庁舎

9月13日(火) クライペダ市庁舎を訪問し、ヴァイトーナス・グラブラスカス市長に表敬訪問を行った。

市長は御自身もトランペット奏者で本年8月に日本の自衛隊の練習船がクライペダに寄港した時に練習船艦長と思いがけず合奏する機会を得た楽しい思い出のエピソードを交えて温かい歓迎のスピーチを頂いた。

クライペダ市は世界有数の琥珀の産地であり、日本の琥珀の産地である久慈市(岩手県)と姉妹都市になっている。

市長は本年3月に久慈市を訪問されて大歓迎を受けておられ、大変親日的で日本との友好関係の更なる強化を望んでいるので、両国の若者が友好の輪を拡げてくれることを期待していると我々訪問団に熱い激励のお言葉を頂戴した。

(4) Wood Industry Group

9月13日(火) クライペダ郊外のWood Industry Groupを訪問して工場見学を行った。

該社は1889年創立の長い歴史のある会社だが、直近の13年間に業容を約3倍に急拡大している。

国内外から集める針葉樹・広葉樹を約半々の原料として粉砕し成形する家具材が主要製品で、IKEA社(蘭)に95%を納品しており、IKEA社の事業拡大と共に事業拡大を果たしている。

トヨタ社から“KAIZEN”、“KANBAN”等の経営手法を学ぶ等経営の近代化に取り組んでおり、IKEA社一社に依存する一本足経営に対する危うさは感じるが、現在のところ順調に事業拡大を果たしており、リトアニアの貴重な輸出品目の一角を占める外貨獲得貢献企業となっている。

(5) Klaipėdos Nafta (Klaipėda Oil)

9月15日(木) クライペダ港にKlaipėdos Nafta社を訪問、該社の業務用ボートでLNGプラントを見学した。

リトアニアは独立後も天然ガスをロシアからのパイプラインによる供給に100%依存していたために、政治的には独立しても経済的にはロシアの支配下に置かれていたが、2014年に該社のLNGプラントが完成したことにより世界自由市場からLNGを輸入することが可能となり、市場価格よりも遥かに高い天然ガスをロシアから買わざるを得なかった体制から脱出した。

現在でも天然ガスの6割はロシアのガスプロムから購入しているが、価格は市場価格で購入することができている。

LNGプラントは洋上にあり、LNGタンカーを倉庫として使い、必要量をガス化してパイプラインで陸上に運んでいる。

現状では1~2船/月のLNGタンカーを長期契約の下に運営している。

クライペダ港の拡張計画が検討されており、その計画に合わせて将来はより経済的な新たな陸上プラントを建設することを計画している。

米国のシェールガス開発の進展により、世界のLNG市場が急拡大する中での大変タイムリーなLNGターミナルの建設となり戦略決定のすばらしさに拍手を送りたい。

該社の広報担当者から船上で懇切な説明を受けたが、ロシアの経済的支配から脱することができた喜びと誇りが説明の隅々に満ちあふれており大変印象的な見学となった。

(6) Kaunas Algirdas Brazauskas 水力発電所

9月20日(火) カウナス郊外のアルギルダス・ブラゾースカス水力発電所を訪問した。

同発電所は発電能力100MW、リトアニアの電力の4%、再生可能エネルギーの40%を占めている。

夏は水不足のために部分的にしか稼働できないが、冬には豊富な融雪水があり4基の発電機をフル稼働できる。

1960年に稼働開始した発電所で、その後2回の発電効率改善工事で近代的な発電所となっている。

訪問時には貯水池に十分な水量があるように推察されたが1基の発電機のみが稼働しており、せっかくの発電能力を発揮できていないのはもったいないように感じた。

ソ連占領時代の官僚的な管理の残影が残っているのかもしれない。

3. リトアニア青年・一般市民たちとの交流

各地で下記のごとくりトアニアの若者・市民との交流が行われた。

リトアニア側から参加してくれたメンバーは元々日本に関心のある方々なので大変友好的な雰囲気の中で、派遣団団員が工夫を凝らした日本文化紹介(書道・茶道・折り紙・ヨーヨー・けん玉・福笑い・少林寺拳法・歌唱・踊り)を行い充分に所期の目的を果たし充実した交流の時間を持つことができたと感じている。

出発前に全員で充分に練習を積んできたリトアニア民謡「アンカノ ムーレイ」合唱を各地で披露し大変好評を博した。

最後の三日間はリトアニアの日本訪問団10名と優秀なアドバイザーを交えて、宗教、社会習慣(挨拶・お詫び)、就職活動、自殺、環境について情報交換と議論を行い充実した時間を過ごした。

23日(金)夜には日本大使公邸にリトアニアの日本訪問団を含めて全員を御招待いただき、大使御夫妻・大使館員の皆様から日本食の歓待にあずかった。

9月10日(土) Now Japan (一般市民)

11日(日) オリエンテーション・ゲーム(ピリニウス大学生) 夕食(リトアニアの日本訪問団)

12日(月) 社会安全労働省青年局(一般市民)

13日(火) クライペダ図書館(一般市民)

14日(水) ニダ青年局(青年)

16日(金) テルシャイ(高校生)
ホストファミリー(一般市民)

17日(土) ホームステイ(一般市民)

18日(日) ホームステイ(一般市民)

19日(月) カウナス工科大学(大学教授)
ヴァイズガント中学(中学生)
ヴィタウタス・マグナス大学(大学教授・大学生)、杉原記念館(日本橋クラブ大学生・留学生)

- 21日(水) ステポナス・カイリス中学・小学校
(一般市民・中学生・小学生)
- 22日(木) ヴィリニユス青年局(事務局)
リトアニアの日本訪問団
- 23日(金) リトアニアの日本訪問団
日本大使公邸(大使御夫妻、大使館員)
- 24日(土) リトアニアの日本訪問団

4.所感

全ての日程を無事に終えて、全団員が安全に帰国することができたことを安堵感で振り返っている。

現地関係者並びに内閣府・青少年国際交流推進センターの関係者の方々の事前のすばらしい準備と御協力のお蔭と心より感謝申し上げたい。

歴史のある行事なので過去の様々な経験の積み重ねにより大きな財産となるノウハウが効率的なスケジュールに結び付いている。

団員も選抜されたメンバーなだけに、全ての行事に積極的に取り組む意欲にあふれており、強い責任感を持って事前準備も充分に行って参加してくれた。

連日朝晩には各係の担当から当日の注意事項、反省事項を相互確認してPDCAサイクルを見事に回すことができていた。

私自身はリトアニアについてはほとんど知識の無い状態で団長を引き受けることとなったが、事前の勉強を含めて当地での様々な行事をこなす中で大量の情報に触れることができて、かなりのリトアニア通・リトアニアファンになった。

リトアニアで感じた最初の強い印象は、日本と同じような清潔な街並みにびっくりしたことである。

街の清掃がしっかりできていることもあると思うが、社会の倫理教育が下地にあるように感じた。

ソ連占領時代には街はもっと汚れていたが、独立後の25年間で大分倫理教育が進んできているとのこと。

料理の飾り付け・味付け等の繊細さ、シャイな国民性等、日本人に通じるところが随所に感じられる。

重枝大使のおっしゃるとおり、リトアニアには大きな可能性があるかもしれないと感じる。

リトアニアは厳しい歴史を通り抜けて独立を果たしてから未だ25年しか経っておらず、その緊張感がしっかりと若い世代にも受け継がれている。

日本の若者たちが日本も戦後にシベリア抑留で34万人もの命を失い、生き残った抑留者の帰還に戦後11年もの時間を要することになった歴史をほとんど知らないのと同様に、ソ連占領時代に11万人以上のリトアニア人がソ連によるシベリア抑留で辛酸を舐めたことを決して忘

れないように、若い世代が語り継ぐ運動が行われている。

そのリトアニアの若者たちの緊張感が、これからのリトアニアの発展のエネルギーになるのではないかと感じた次第である。

未だに課題は山積しているが、強力なリーダーシップの下に改革を積み重ねていく意欲にあふれており、日本が手を貸すことができる領域も多いと思う。

両国の絆を少しでも強くすることに我々の訪問団が貢献することができれば幸いである。

(添付資料) リトアニア共和国概観

— 在リトアニア日本国大使館 提供

(1) 一般事情

- 1) 面積 約6.5万km² (=東北地方)
- 2) 人口 約288.1万人(昨年より3.5万人減)
- 3) 首都 ビリニユス
- 4) 言語 リトアニア語
- 5) 宗教 主としてカトリック
- 6) 略史

1253年	ミンダウガス大公がリトアニア国王となる
1386年	リトアニア・ポーランド王国成立 (同君連合)
1569年	ポーランドと連合国家(制度的合同)
1795年	第3次三国分割によりリトアニアの大部分がロシア領となる
1918年	独立を宣言
1920年	ソ連より独立
1940年	ソ連に併合
1990年2月	共和国最高会議選挙
1990年3月	独立回復宣言
1991年9月	ソ連国家評議会バルト3共和国の国家独立に関する決定を採択
2001年	WTO加盟
2004年	NATO加盟
2004年	EU加盟

(2) 外交・国防

1) 外交方針

1990年の独立回復後、NATO及びEUへの加盟を目指し、2004年に加盟を実現。現在、近隣国との善隣関係を維持し、ベルラーシ等東方近隣諸国の民主化支援を重視。EUとNATOの連帯を重視。

2009年から2年間の民主主義共同体議長国、2011年の欧州安全保障協力機構(OSCE)議長国、2012年は北欧バルト評議会議長国、2013年後半はEU議長国、2014年～15年には国連安保理非常任理事国に就任する等、国際社会

で積極的な役割を担う。

ウクライナ情勢を踏まえ、国家防衛と安全保障を強化。

2) 軍事力 (出典：ミリタリーバランス2015)

- ア. 国防予算 359百万米ドル (2013年)
- イ. 兵力 陸軍7,500人、海軍500人、空軍900人、統合軍2,050人
- ウ. 徴兵制 2008年9月に廃止したが、2015年5月に再開

(3) 政治体制・内政

- 1) 政体 共和制
- 2) 元首 グリボウスカITE大統領 (2014年5月二期目再選)
- 3) 議会 一院制 (議席数141、任期4年)
- 4) 与党 社会民主党、労働党、秩序と正義党
- 5) 政府 首相 プトケビチュウス首相 (社会民主党 2012年12月就任)
外相 リンケビチュウス外相 (非議員 2012年12月就任)

6) 内政状況

- イ. 2009年5月の大統領選挙の結果、同国初の女性大統領であるグリボウスカITE大統領が誕生 (2014年5月再選)。同大統領は強靱なりトアニアの追及、領土一体性の擁護、社会的な阻害の低減、汚職対策、政治制度改革を重視。
- ロ. 2012年10月の総選挙において、社会民主党が第一党となり、他の3党と連立政権を形成し (2014年8月にポーランド人選挙活動党が連立離脱) 12月にプトケビチュウス首相が就任。同政権は国家の防衛及び安全保障、経済成長の促進等を優先事項としている。
- ハ. 2016年10月に国政選挙が実施される。
- ニ. エネルギー政策に関しては、2014年10月、クライペダ港のLNGターミナルが完成し、2015年12月スウェーデン及びポーランドとの送電線網が接続。ピサギナス原発計画については地域パートナーであるエストニア、ラトビア、戦略的投資家である日立製作所との間で協議を継続。

(4) 経済

- 1) 主要産業
主要産業は製造業 (石油精製、食品加工、木材加工、家具、化学製品等) や、販売小売業及び物流業。
- 2) GDP (2015年) 372億ユーロ
(2014年：363億ユーロ)
- 3) GDP/人 (2015年) 12,802ユーロ
(2014年：12,368ユーロ)

- 4) 経済成長率 1.6% (2014年：3.0%)
- 5) 物価上昇率 -0.9% (2014年：0.1%)
- 6) 通年失業率 9.1% (2014年：10.7%)
- 7) 総貿易額・主要貿易品目 (2015年)
 - イ. 輸出 230億ユーロ (石油製品、電気機器・機械類、車輛類、化学製品、家具)
 - ロ. 輸入 254億ユーロ (原油・天然ガス、電気機器・機械類、車輛類、化学製品)
- 8) 主要貿易相手国
 - イ. 輸出 露、ラトビア、ポーランド、独、エストニア、ベルラーシ
 - ロ. 輸入 露、独、ポーランド、ラトビア、蘭、伊
- 9) 通貨 ユーロ
(1~8の出典：リトアニア統計局)

(5) 二国間関係

1) 政治関係

- イ. 戦前日本はカウナス (当時の臨時首都) に領事館を有していたが、1940年リトアニアのソ連併合に伴い同領事館を閉鎖。
- ロ. 1991年9月に日本はバルト三国に政府ミッションを派遣し、バルト三国の平和裡の独立に関し新たな外交関係開設。
- ハ. 1992年6月、在デンマーク大使館の兼轄が開始され、1997年1月に首都ビリニユスに在リトアニア大使館開設。
- ニ. 1999年3月、在京リトアニア大使館開設。

2) 経済関係

- イ. 貿易額・主要貿易品目
(出典：2015年リトアニア統計局)
対日輸入：3,846万ユーロ (機械類、車輛類、ゴム類、化学繊維、光学機器等)
対日輸出：4,874万ユーロ (たばこ、光学機器、家具、乳製品、繊維製品等)
- ロ. 進出企業 (2015年5月現在)：9社
日立製作所、矢崎総業、コニカ、ミノルタ、オリンパス、JTI、バルテム (住友商事関連子会社)、SMC、
ガルスダロ・メディエノス・テクノロジー社

- 3) 在留邦人数 79人
(2016年3月現在)
- 4) 在日リトアニア人数 418人
(2015年6月現在)
- 5) 訪問者数
日本→リトアニア 21,118人
(リトアニア統計局2015年)
リトアニア→日本 3,800人
(JNTO2015年)

6) 要人往来 (2006年以降)

イ. 往訪

- 06年 麻生外務大臣 (5月)、
中馬内閣府特命担当大臣 (7月)
- 07年 天皇皇后両陛下 (5月)
- 09年 伊藤外務副大臣 (1月)
- 11年 伴野外務副大臣 (5月)
- 13年 松山外務副大臣 (4月)
西村内閣府副大臣 (9月)
- 14年 山崎参議院議長 (7月)
- 15年 藪浦外務大臣政務官(4月)

ロ. 来訪

- 06年 キルキラス首相 (8~9月)
アジュバリス外務大臣 (11月)
- 11年 セクモカス エネルギー大臣 (9月)
デグティエネ国会議長 (10月)
- 12年 クビリウス首相 (2月)
イグナタビチユス外務副大臣 (7月)
メイルーナス外務副大臣 (9月)
ゲルーナス文化大臣 (11月)
- 13年 マズローニス環境大臣 (10月)
- 14年 オレカス国防大臣 (2月)
リンケピチュウス外務大臣 (3月)
ババルキス教育科学大臣 (6月)
スプルオーギス エネルギー副大臣 (6月)
グスタス経済大臣 (9月)
ババルキス教育科学大臣 (10月)
- 15年 ツィロンカ農業副大臣 (3月)
グスタス経済大臣 (5月)

7) 主な二国間条約・取極

2000年 (発効年) 査証免除取極